

第六十七回

豊橋邦楽大会

日本舞踊の部

令和七年 十一月三十日(日)

十二時三十分開演(正午開場)

十六時終演予定

穂の国とよはし芸術劇場 主ホール

主催／公益財団法人豊橋文化振興財団

後援／豊橋市、豊橋市教育委員会

公益財団法人豊橋市国際交流協会

番組

解説・お話一

成田家紫蝶

一、常磐津 巽 船頭

西川廣音

酒に酔った船頭が、三人のなま酔いを演じます。上方者の泣き上戸、江戸っ子の怒り上戸、田舎者の笑い上戸を表現していく常磐津舞踊です。

未来を担う子どもの部・花柳芯喜依の会

二、長唄 胡 蝶

戸澤聡子
松村 周

大きな牡丹が花開く夢のような世界。舞い遊ぶ二匹の蝶の姿を、日本舞踊ならではの表現でお届けします。

未来を担う子どもの部・花柳芯喜依の会

三、長唄 手 習 子

後藤小百合

習い事の帰り道、みち草をしながら蝶々を追いかけたり、こよりを作って好きな子との縁結びを願ったり。お引きずり、振り袖、だらりの帯といった良家の娘の衣裳で踊ります。

一、長唄 俄 獅子

芸者 西川満翠
習間 鈴木弘子
習間 鈴木まり子

江戸末期から明治にかけての吉原では、毎年9月に「仁和賀」という行事が行われ、芸者や習間が即興的な踊りなどを披露していました。「俄獅子」はこの仁和賀をもじって作られた曲です。芸者に二人の習間をからませ、廊情緒をたっぷり表現します。

未来を担う子どもの部・清歌会

二、長唄 越後獅子

徳永朔巴

越後の国から出てきた角兵衛獅子が、江戸日本橋で踊りや曲芸を見せます。賑やかな中に、ひなびた情緒のある変化に富んだ曲で、晒振りが見所となっています。

未来を担う子どもの部・清歌会

一、大和楽 藤むらさき

伊藤咲凜

美しい藤の花房が静かに揺れる情景です。藤の花とその花に遊ぶ胡蝶の舞う姿が可憐な踊りです。

休憩

解説・お話二

成田家紫蝶

一、長唄 都 風 流

西川廣珠佳

明治、大正のころまでの浅草、吉原界隈の初夏から冬の情緒が描かれています。誰も知らない遠か昔の姿ではなく消えていくようにする時代の面影を情緒豊かに表現していく風流な長唄舞踊です。

未来を担う子どもの部・清歌会

二、長唄 雨の五郎

徳永美祿

曾我物語の五郎を取り上げた所作事です。廊通いに秘められた仇討ちの意気込みなど、江戸荒事の勇壮さに色気と華を含んだ歌舞伎色豊かな作品です。

一、長唄 藤 娘

藤間勘海士

舞台一面に咲き誇る藤の花。その藤の花の精が可憐な娘に姿を移し踊ります。日本舞踊を代表する長唄の名曲に乗って色彩豊かに恋する娘心を様々に踊り分けます。絵画のような舞台をお楽しみください。

四世 花柳 壽輔 振付

二、長唄 二人 椀 久

松山 花柳芯喜依
賛助出演
椀久 花柳小二郎

大阪の豪商・椀屋久兵衛は、新町の傾城・松山太夫と深く馴染み、派手な遊びが過ぎて座敷牢に入れられます。やがて鬱気が募り発狂した久兵衛は牢を抜け出し、松山の幻を見ながら、在りし日の華やかな思い出を舞う物語です。

千秋楽